

我が家流へたれキャンプ

奇跡なる軌跡 入門の変

文・荒井豊明の糟糠の妻

「キャンプはじめるぞ！」

時は 当時、天下の一人っ子・長女がようやく新一年生になった春。

(ふ〜ん、夫が何か言ってる・・・。)

妻は、子どもの新一年生生活の管理に追われているので、
夫の寝言は軽く流した。

それもそのはず、結婚何年間の夫の素行はといえば

休日は専らお家でまったりゴロゴロ生活

気まぐれにパチンコや飲み屋へ繰り出し

小金がたまれば温泉旅行。

そんな夫のアラを書いているこの妻なる小生とて

運動音痴で、読書とパソコンが癒しのインドア完全オタク主婦

どこをどう考えても、アウトドアとは一生無縁と決めていた。

決めていた、のだ。

キャンプか・・・。(何だかよく分からないけどどうぞ自由に。)

と、生返事をしたその日を境に、日常生活がいきなり一変！

猫やら飛脚やらその他宅配業者が何回も我が家を往復し、

夫がネットでどんどん注文してきたキャンプ道具入りのダンボールが

あれよあれよという間に玄関口に積まれていき・・・。

夫は、何かを始めると、まず完璧にグッズを揃える、といった、
いわゆる「形から入る」性質であった。

そんなキャンプグッズ達はあっという間に部屋を占領し

これって一体どうなるの〜！？てか、家計は赤字〜！！

何なのかもよく分からないグッズ達と空のダンボールに囲まれ

ただただ顔面蒼白になる妻、なのであった。

当の夫といえば、そんな危機感はまったく感じないのか？

とりあえず春の休日に、練習で日帰りバーベキュー場へ行ったり

庭で昼ごはんを作ってみたりして

ゴールデンウィーク2泊3日、いざキャンプデビュー戦！

へと意気込みを見せている。



ついにデビュー当日。朝5時出発！！（ちょっと早いんですけど・・・）
ゴールデンウィーク中の渋滞を考えての早朝移動だが、さすがに車はスムーズに流れ・・・
朝8時、現地到着。早すぎ！！仕方なく、道の駅で暇つぶしをする。
しかし、その場所がまさか、痛い思い出の地となろうとは・・・！
件の新一年生長女を、道の駅の休憩場所へ放牧させていたところ
「・・・おかあちゃ〜ん！」「どしたん？」
「手、犬に噛まれた。ぶぎゃあああん」
大慌てで休日診療所に駆け込んだのは言うまでもなく
水遊び禁止！土いじり禁止！を言い渡されてしまう。
水も土も触ることのできないキャンプ遊びって一体？
長女は痛い手をこらえつつ、残念なお初キャンプをすげす羽目に。
そんなこんなでチェックイン時刻にキャンプ場へ入ったのはよいが、
テントその他もろもろ設営、炭火起こし、ランタン灯火等々
家族そろって何もかもが初めてで（てか、妻、未だによくわかんない^^）
「ごはんの時間が遅くなる〜ああ日が暮れて真っ暗」
夫は時間に追われながら諸々の作業にいちいち試行錯誤を重ねている。
何とか、その日暮らし状態で一日を終え
中日は、娘可哀相さの景気づけで近場の観光地へ行くことにする。
が。
やっぱりゴールデンウィークは大渋滞。
待たされるに待たされた挙句、結局断念。
キャンプ場に行ったからには都会の喧騒を離れ

場内でのんびり暮らすのがキャンプの王道だと、知らされる。
それでも、何らかの家族団らんはしたはず・・・と
これを読んでいる皆様へ心温まるお話を、と思い出そうとしたが
いくら考えても思い出せない。う～
最終日、出発の日
「犬の噛まれた消毒の予約、朝9時やって！」
そら大変 慣れぬ作業に散らかり放題のテントサイトに呆然とし
早朝4時より撤収作業にこれまた試行錯誤。
我が家歴史上初、慌しい苦行に四苦八苦な黄金休日週間、
キャンプデビューとなったのである。



それでも懲りずに一カ月後にはリベンジキャンプへと
全く同じキャンプ場へ繰り出し
それから3年も過ぎるが、連休が近づくとたび
「今度の休み、どうすんのどこのキャンプ場？」
なる会話が飛び交うのは、よく考える不思議で、ある。

